

家族経営協定 最前線

—改めて訴えたい協定の意義・生かし方、普及推進の取組—

五條 満義 (2011. 12. 8)

I. はじめに

II. 家族経営協定の考え方と生かし方について

(1) 家族経営協定の基本的考え方とその背景

- 古くは親子契約、その後、家族経営協定の普及が始まり15年以上が経過
家族経営協定では、経営改善や男女双方の経営参画を多分に意識した取組へ
- 話し合いを基本に協定締結、一方、締結した内容への各人の正確な理解も重要
協定内容4つの主な分野：①就業条件、②経営計画・管理、③経営継承、④生活面
- 家族経営協定の意義を議論する現局面の背景
農地を守る担い手論の根幹は、今も家族農業経営の底力の発揮
経営の内発的な発展があつてこそ、「戸別所得補償」も効果を発揮

(2) 家族経営協定を生かすための視点

- 経営の現状確認：新たな方向づけの布石に
例えば、経営を取り巻く情勢の検証、経営上の成果や問題点の把握
- 経営の成果とは何か：協定はその中身を考える契機に
利益追求のみではなく、時間的なゆとりや多様な生活スタイルの構築も
- 経営で何を目指すか：協定はその明確化を図る媒体に
例えば、経営規模の拡大目標、環境保全型農業への取り組みなど
- 個人の能力発揮に向けて：協定はその条件づくりに
例えば、各人の処遇の明確化、共同経営者としての責任意識の醸成等

⇒以上の視点を踏まえて、家族で具体的な行動計画を定め・実行する
協定締結で直ちに効果発揮というよりも、それを生かす行動こそが大事

Ⅲ. 家族経営協定の普及推進の着眼点について

(1) 協定締結の趣旨をどう伝えて行くか

○文書化の意義とその誘導への取り組み

文書化は「手段」、家族の話し合いを促す媒体、「現状満足派」等への対策も課題

○相手の立場を踏まえて協定の趣旨を伝える

当事者に分かり易い協定書づくり、協定は農村慣行の良さを補強する側面も

○男女共同参画に対する誤解の払拭

男性にも利点が多い共同参画の趣旨、「経営改善・共同参画・協定」の一体性

○協定内容の見直し・ステップアップへ

協定の1年更新や付属表の設定、当事者全員の参画による話し合いが原則

(2) 締結運動を地域にどう広げて行くか

○農業者による主体的な推進

モデル農家を軸とした理念の発言や、協定農家間の情報交換の場づくり

○推進体制に問われるもの：二つの機能が必要

締結運動を継続する仕掛けと、協定内容の策定をめぐる助言や支援

○関連制度との一体的な協定普及

農業者年金、認定農業者、エコファーマー等、ただし、協定の形骸化を防ぐ

○協定の幅広い機能のPRも必要

例えば、法人経営、兼業農家、高齢農家等の場合も協定普及の対象になる

[この後の意見交換に向けて]

○家族内の話し合いで取り上げたい課題は何か、最も関心のある協定内容は何か

○協定を効果的に生かす方法としてどのような点が重要と考えるか

○協定に対する現場の反応、協定普及が停滞する時の主な要因は何か

○地元における協定の普及推進の状況（推進方法、各種の組織や取組との連携等）